おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーいつの間にか準備ー

NO．65

最近、「これまでに経験したことのない大雨が来ます」といった天気予報が流れますね。それも珍しくなくなっています。大変そうなことはわかっても、恐怖感ばかりがつのったり、どこかピンと来なかったり。そして「こんなことになるとは思わなかった」と被災された方々の声。今住んでいるこの場所で、必要な準備って何でしょうね。一度しっかり考えなきゃと思います。

さて、子ども達の生活に目を転じると、じつは、「これまで経験したことのない…」ことばかりです。言われてみれば当たり前のことですが、日常の忙しさの中、なかなか子ども目線ですべてを考えるわけにもいきません。それに、大人はこれから先、子どもが経験するだろうことが、なんとなくわかっているので、災害を想定するような危機感はありません。子どものドキドキ感を目にして初めて気づくことも多いと思います。

遠足等のイベントの予定が配られてから、「下見を兼ねて一度行ってみようか」と、家族で出かけたという話を伺うことがあります。とても素晴らしい取り組みです。わからない恐怖感も、家族が一緒なら少し軽くなりますし、臨機応変に対応できます。今のご時世なかなか難しいかもしれませんが、絵に残せる思い出作りが、特に経験の少ない子の幅を広げていくきっかけになるものです。

でもね、子どもにとっては、もっと日常のことでも未経験がいっぱいです。小さなことは、少しの準備でも大丈夫ですが、先々の大きなイベントや生活スタイルの変化については、もっと前からさりげなく準備をしておきたいものです。例えば、どんなことがあるでしょう？

これから幼稚園や保育所に通う予定の子は、通う場所が決まったら、どんな一日になるでしょう。朝起きる時間は今とどのくらい違うでしょう？ 園の入口までやバス停まで、毎日決まった距離を歩くことになりませんか？ 他にも大なり小なり新たに経験することがあるはずです。今からすべて練習する必要はありません。ただ、そんな生活になりそうだなとイメージできたら、起こす時間をちょっとだけ早めてみたり、散歩で歩くプチ習慣を意識してみたり。そんな小さな意識付けが、“やっておいてよかった”につながるものです。子どもの負担も軽くなります。

学校に通うようになると、年を追うごとに自分に課せられることが増えていきます。日常些細な当たり前のことですが、自分の荷物は自分で扱うことが求められます。カバンの物の出し入れも、スケールが大きくなりますから、年々量が増えます。どこにあるのかその都度カバンをひっくり返して全部出しているようでは落ち着いて進めません。次に控えている楽しみも半減です。校外学習や宿泊学習もそのうちやってきます。そこでは、自分スタイルではなく、与えられた場所や時間に合わせていくことを学びます。その場しのぎの準備は力にならず、経験は積み重ねてこそ力になります。小さなカバンを毎日持って歩いていることが、大きなリュックサックを扱える力になります。日頃から、着替えの準備や片付けを自分でもしていると、あるとき急に気持ちも自立していきます。

少し先を見据えて、今から無理なく取り組んでおくとよいことを、その子に合わせて支援の中で提案していければと思います。これは先走りではありません。今日を未来へつなげていく道しるべ、負担のない“いつの間にか準備”です。（R3．１０）K